

短 報

特別養護老人ホームにおける ユニットケア推進の取り組み ～他施設見学から見える気づきと課題～

旭川敬老園*

大竹 勲・近藤万祐子
松下 紫乃・野村賀南子
青木 和子・森 繁樹

キーワード ユニットケア 施設見学
ユニットケア推進委員会

1. はじめに

旭川敬老園では平成17年4月の施設改築に伴い、多床室型から個室ユニット型施設として、ユニットケアの導入と実施を行っている。ここでは、ユニットケア推進委員会での他施設見学を通じて見えた気づきと今後の課題について報告する。

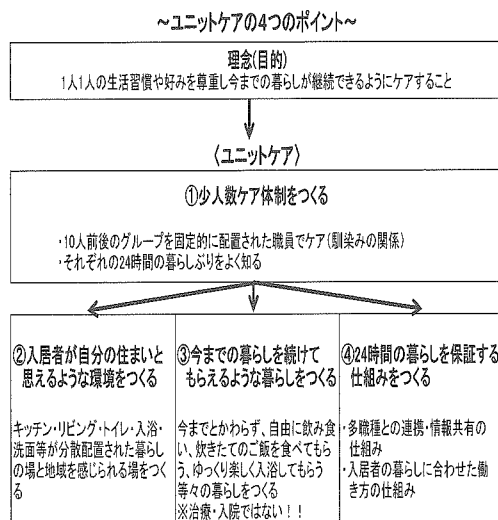
2. ユニットケアの4つのポイント

まず、ユニットケアの理念は「暮らしの継続」である。そのために当たり前の「②住まい」をつくり、その中では「③自分の暮らし」をしていただくようサポートし、いつでも同じようにサポートができる「④24時間の連続した暮らし」をつくるためにチームケアを実践していく。これらの実践は個々の利用者への個別対応が求められ「①少人数体制」をしき、実践するということになる。(図1)

これからの利用者は、認知症と重度の方にシフトしていく。そのような利用者に対して、今までと変わらないなじみのある環境の整備は、認知症の方の見当識障害や重度化された方に落ち着いた環境を提供できるメリットがある。また、自分のペースで寝たり起きたり、食べたりできる事は、認知症や重度になっても最期まで自分のペースで暮らし続けられ

る。そして、少人数のケア体制は、自分の意向を表現できない利用者に対して表情やしぐさを読み取り、きめ細かで安心していただけるサポートを行うことができる。このようにユニットケアは重度化・認知症の入居者のサポートになくはならないケア方法であると言えるが、その運営管理が難しい現実もある。

図1 ユニットケアの4つのポイント



日本ユニットケア推進センターより

3. ユニットケア委員会の取り組み

旭川敬老園では、介護現場の職員の自発性を生かしていく意味から、平成23年にユニットケア推進委員会を立ち上げ、様々な視点からユニットケアについて話し合いや実施を行っている。そしてその活動の一環として、他施設を見学することにより、職員の意識の向上と職場の改善意欲を高めていくこととした。この取り組みは、他の施設で感じたことを参考に、新たな取り組みにつなげるとともに、外の環境や刺激に触れることにより、敬老園での方針を納得できる機会ともなっている。

見学施設として、

平成24年度

- ・特別養護老人ホーム 桃香の里
- ・特定(介護予防)認知症対応型共同生活介護事業所 グループホーム えがおの家

社会福祉法人旭川荘(理事長 末光 茂博士)

*特別養護老人ホーム

平成25年度

- ・老人保健施設 エスペランスわけ
- ・小規模多機能型居宅介護事業所 和が家
- ・デイサービス いつもここから
- ・グループホーム アネシス
- ・介護付有料老人ホーム 結びの杜
- ・グループホーム よしい川

以上の施設に見学をさせていただいた。

かねてより施設見学をしてみたいとの意見が多く、実施できた帰り道には、「見学してみている刺激になった」「このままではいけないと思った」など前向きな意見が多くあった。

4. 施設見学からの着目点

見学をしてみても感想や気づきを、委員会での報告会やアンケートの形で意見交換し、またその気持ちを形にしようと各ユニットでの実施を行った。

多くの参考場面から、意見が多かった3つについて紹介する。

1) 環境面

(1) 着目点

- ・清掃が行き届いている
- ・整理整頓されている
- ・家庭的な雰囲気作り
(飾りつけ、物の配置、インテリア、家庭菜園)
- ・生活感がある
- ・衛生面の配慮(清潔、臭いのない工夫…ダムウエータの使用)
- ・備品の充実(食器類の統一など)

(2) 当園での取り組み

- ・物品の購入(テーブルクロス・加湿器・備品など)
- ・臭いへの配慮(換気・脱臭剤)
- ・食器の検討(食生活改善委員会と連携)
- ・物品の整理(紙下着・脱衣場)
- ・ベッドの入れ替え
- ・タンスの変更(荷物が置けるように工夫)
- ・リビングの配置を変更
- ・利用者がくつろげる憩いの空間を考える
- ・使用されていなかった場所を活用

2) 利用者への関わり

(1) 着目点

- ・のんびりとした雰囲気
- ・ゆっくりとした時間の流れ
- ・余裕を持った関わり合い
- ・入居者が役割や仕事を持っている
- ・調理など職員も一緒に行っている
- ・整容がきちんとされている
- ・羞恥心への配慮(バケツを持たない排泄介助)

(2) 今後実施していきたいこと

- ・利用者と一緒に過ごす時間を増やしたい
- ・手作業や仕事(食器洗いなど)を一緒にしたい
- ・季節感のある行事を行いたい
- ・整容をきちんと行う(頭の先から足の先まで)
- ・声のかけやすい雰囲気作り
- ・地域の方との交流
- ・寝たきりの方にもっと目を向けたい

3) 業務

(1) 着目点

- ・利用者の前でバタバタしてなくて不安を与えていない
- ・余裕を持った仕事をしている
- ・業務に追われていない
- ・書類、記録用紙の整理
- ・物品の使い方の管理方法
- ・外来者に対しての挨拶・接し方
- ・(制度や料金の違いといったこともあるが)介護業務と家政業務の分業(有料老人ホームは生活管理費をもらっている)

(2) 今後実施していきたいこと

- ・余裕を持って仕事をする
(忙しく動いてしまうが、落ち着いて深呼吸して)
- ・生活の場だと意識する
- ・業務の整理・見直し(入居者との関わる時間が増えるように)
- ・ユニット内に記録用紙などが散乱ないように

5. 施設見学からの気づき

- ・見学から得られた刺激ややる気を行動に移すことによって意識が変わってきた
- ・風景でしかなかった空間が違う視点で見えるようになった
- ・小さなことからでも実行に移している⇒やりがい
- ・すでに実施していることも多く、(目には見えにくい) 他施設より進んでいる面も多くあり、当園の方針を改めて納得した
- ・他施設と比較することにより、自分たちのユニットはどこまで進んでいるのかを確認する指標となる

6. 今後の課題

今後の課題として、各ユニットで家具の購入や配置・パターションの活用・雰囲気作りなど、リビングでゆっくり過ごしてもらえ環境づくりを行っていききたい。その際には、職員の都合ではなく、利用者に環境を合せていくことを大切にしていきたいと考えている。

次に、人材不足が続いているが、限られた資源や人材の中での工夫が必要であり、作業的なことが多く、業務に追われて利用者とはゆっくり関われないということを言い訳にはならないと感じた。利用者と一緒にいられる時間を増やしたいという思いを実現するためには、介護現場にいる職員自身が、利用者の生活中心に業務を整理・見直しをしていく必要があると感じた。

また、意識の変化がユニットに芽生えるような意識改革のためには、個人だけではなく、ユニットとして全員の取り組みとなるようにしていかなければならない。そうした意味では、ユニットリーダーの果たす役割には大きなものがあると感じた。

今後、これらの課題を少しずつ改善していきたい。

7. おわりに

委員会の発足に際して園長から、「施設の運営は自然にできるものではなく、みんなで作り上げていくものである。そのためにこの委員会が必要になってくる」と言われた。ルールに敷かれた介護業務ではなく、ユニットケアは自分たちで感じたり考えた

ことを、自分たちの手で作り上げていかなければならないことを他施設を見学して改めて理解することができた。そして、そのためには介護現場にいる自分たちが変わっていかなければならないと思う。小さなことからまず始めてみようと思えるきっかけが、この施設見学の機会を通じて生まれるように思う。自分たちの実践を客観的に振り返っていく意味でも、他施設等への見学の機会を持つことを今後も継続していければと考えた。

8. 参考文献

- ・森繁樹 (2011) : 介護のちから, 中央法規出版株式会社
- ・荘村明彦 (2012) : ユニットケア研修テキスト, 中央法規出版株式会社